

1 平和記念式典 (広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)



※写真提供 広島市

開催概要 (平成24年度)

歳事名：平和記念式典 (広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)
 会場：平和記念公園
 (広島電鉄「原爆ドーム前」電停 徒歩6分)
 日時：平成24年8月6日(月) ※例年8月6日開催
 参列者数：50,000人
 連絡先：広島市 市民局 市民活動推進課 082-504-2103 (直通)

式次第 (平成24年度)

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 開会 | 7. 放鳩 |
| 2. 原爆死没者名簿奉納 | 8. 平和への誓い |
| 3. 式辞 | 9. あいさつ |
| 4. 献花 | 10. ひろしま平和の歌(合唱) |
| 5. 黙とう・平和の鐘 | 11. 閉会 |
| 6. 平和宣言 | |

平和宣言 (平成24年度)

1945年8月6日8時15分、私たちの故郷は、一発の原子爆弾により灰じんに帰しました。帰る家や慣れ親しんだ暮らし、大切に守ってきた文化までもが失われてしまいました。——「広島が無くなった。何もかも無くなった。道も無い、辺り一面焼け野原。悲しいことに一日で遠くまで見えた。市電の線路であらう道に焼け落ちた電線を目安に歩いた。市電の道は熱かった。人々の死があらここにあった。」——それは、当時20歳の女性が見た街であり、被爆者の誰もが目にした広島の変です。川辺からは、賑やかな祭り、ゴード遊び、魚釣りや貝取り、手長えびを捕る子どもたちの姿も消えてしまいました。
 そして原爆は、かけがえのない人の命を簡単に破壊してしまいました。——「警防団の人と一緒にトラックで遺体の収容作業に出る。少年の私は、足音を持つように言われ、つかむが、ズレと皮がむけて剥れない。覚悟を決めて指先力を入ると、滴が重れた。臭い。背が腫れた。いちにのさんとトラックに積んだ。」——この当時13歳の少年の体験のように、辺り一面は、無数の屍が重なり、声にならない呻き声の中、息のない母親のお乳を吸い続ける幼児、死んだ赤子を抱き締める泣顔の母親など、正に生き地獄だったのです。
 当時16歳の少年は、大切な家族を次々と失いました。——「7歳だった弟は、被爆直後に全身火傷で亡くなり、ひと月後には、父と母、そして13歳の弟と11歳の妹が亡くなりました。唯一生き残った当時3歳の弟も、その後、癌で亡くなりました。」——広島では、幼子からお年寄りまで、その年の暮れまでに14万人もの尊い命が失われました。

内閣総理大臣あいさつ (平成24年度)

67年の今日、原子爆弾が広島を襲い、約14万人もの尊い命が一瞬にして奪われ、多くの市民の方々が重傷を負ったままに、研究・教育機関、NGO、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に当たり、原爆犠牲者の犠牲となられた方々の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。
 そして今なお原子爆弾の後遺症に苦しめられている方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

人類は、核兵器の惨禍を決して忘れてはなりません。そして、人類史に刻まれたこの悲劇を二度と繰り返してはなりません。
 唯一の戦争被爆国として核兵器の惨禍を体験した我が国は、人類全体に対して、地球の未来に対して、崇高な責任を負っています。それは、この悲惨な体験の「記憶」を次の世代に伝承していくことです。そして、「核兵器のない世界」を目指して「行動」する情熱を、世界中に広めていくことです。

被爆から67年を迎える本日、私は、日本政府を代表し、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、日本国憲法を遵守し、非核三原則を堅持していくことを、ここに改めてお誓いいたします。
 67年の歳月を経て、被爆体験を肉声で語っていただける方もかきりおおくとなっております。被爆体験の伝承は、歴史的に極めて重要な局面を迎えつつあります。

「記憶」を新たにする社会基盤として何よりも重要なのは、軍縮・不拡散教育です。その担い手は、公的部門だけではなく、民間、研究・教育機関、NGO、メディアなど、幅広い主体が既に熱心に取り組んでおられます。そして、何よりも、市民自らの取組が大きな原動力となることを忘れはなりません。被爆体験を世界に伝える、世界49カ所での「非核特使」の活動に、改めて感謝を申し上げます。政府としては、これからも、「核兵器のない世界」の重要性を訴え、被爆体験の「記憶」を、国境を越え、世代を超えて確かに伝承する取組を様々な形で後押ししてまいります。

「核兵器のない世界」の実現に向けて、国際社会も確かな歩みを進めています。核兵器保有国の間で、昨年、米露の「新START」が発効し、我が国が国連総会に提出した核軍縮決議が圧倒的な賛成多数で採択されました。こうした動きを進展させ、世界全体の大きなねらいとしていかなければなりません。
 我が国は、志を同じくする国々とも連携しながら、核軍縮・不拡散分野での国際的議論を主導し、「行動への情熱」を世界に広めてまいります。再来年では、ここ広島で、我が国が主導する非核兵器国のグループである軍縮・不拡散イニシアティブ(NPT1)の外相会合を開催いたします。

原子爆弾の後遺症により、現在苦しんでいる方々に目を向けることも忘れてはなりません。認定制度あり方については、有識者や被爆者団体など関係者に熱心にご議論いただき、本年6月に「中間とりまとめ」をいただきました。原爆犠牲者の認定を待たれる方々を一日でも早く認定できるように改善を尽くします。これからも、被爆者の方々の声に耳を傾けながら、よりよい制度への改善を進め、総合的な援護策を進めてまいります。

東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故から、一年以上が経過しました。ここ広島からも、福島再生に心を砕き、様々な支援を寄せていただいています。今なお不自由な生活を余儀なくされている方々が一日も早く普通の日常生活を取り戻せるよう、除染などの生活基盤の再建に全力を尽くします。また、脱原発依存の基本方針の下、中長期的に国民が安心できるエネルギー構成の確立を目指します。

結びに、原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、被爆された方々、ご遺族の皆様のご今後のご多幸をお祈りするとともに、参列者並びに広島市民の皆様のご健勝を祈念申し上げ、私のあいさつといたします。

平成24年(2012年)8月6日
 広島市長 松井一貴

平成24年8月6日
 内閣総理大臣 野田佳彦

2 原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）



基本情報

所 在： 平和記念公園
 住 所： 広島市中区中島町
 （広島電鉄「原爆ドーム前」電停 徒歩6分）
 連絡先： 広島市 市民局 国際平和推進部 平和推進課 082-242-7815（直通）
 建 立 者： 広島市
 建 立 年： 昭和27年8月6日

碑 文

安らかに眠って下さい
 過ちは
 繰返させぬから

説 明 文

広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）
 昭和27年（1952年）8月6日設立

この碑は 昭和20(1945)年8月6日 世界最初の原子爆弾によって
 壊滅した広島市を 平和都市として再建することを念願して設立した
 ものである

碑文はすべての人びとが 原爆犠牲者の冥福を祈り 戦争という過ち
 を再び繰り返さないことを誓う言葉である 過去の悲しみに耐え 憎しみを
 乗り越えて 全人類の共存と繁栄を願い 真の世界平和の実現を祈念
 するヒロシマの心がここに刻まれている

中央の石室には 原爆死没者名簿が納められており この碑はまた
 原爆死没者慰霊碑とも呼ばれている

3 原爆供養塔



基本情報

所在地：平和記念公園
 住所：広島市中区中島町
 (広島電鉄「原爆ドーム前」電停 徒歩4分)
 連絡先：広島市健康福祉局 原爆被害対策部 調査課 082-504-2191 (直通)
 建立者：広島戦災供養会
 建立年：昭和30年8月5日

碑文

原爆供養塔

説明文

世界最初の原子爆弾（昭和20年8月6日午前8時15分）による犠牲者数万柱の遺骨をここに納める。

爆心地に近いこの地では、多数の遺体が収容され、火葬が行われた。

昭和21年1月広島戦災供養会が創立され、同5月仮供養塔、同7月仮納骨堂・礼拝堂が市民の喜捨により建立された。昭和30年7月被爆10周年を期して、広島市が中心となって地下に納骨堂を有する現供養塔が建立され、各所に散在していた遺骨をここに納めた。

毎年8月6日を中心に、広島戦災供養会を始め広島県宗教連盟及び各宗派による慰霊行事が執り行われている。

広島県戦災供養会

4 原爆死没者慰霊行事



※写真提供 広島市

開催概要（平成24年度）

歳事名：原爆死没者慰霊行事
 会場：平和記念公園内 原爆供養塔前
 (広島電鉄「原爆ドーム前」電停 徒歩4分)
 日時：平成24年8月6日(月) ※例年8月6日開催
 参列者数：約150人
 連絡先：広島市健康福祉局 原爆被害対策部 調査課 082-504-2191 (直通)

式次第（平成24年度）

1. 献水：広島戦災供養会 副会長
 2. 修祓・諄詞：神社庁
 3. 献花・祈祷・鎮魂歌：キリスト教
 4. 敬白・読経・回向文：仏教
 5. 献花：広島戦災供養会 会長/遺族代表
 6. 玉串奉天：広島戦災供養会 理事
 7. 焼香：来賓一同
 8. あいさつ：広島戦災供養会 会長
- ※終了後 一般焼香

式辞（平成24年度）

なし

5 原爆の子の像



基本情報

所 在： 平和記念公園
住 所： 広島市中区中島町
（広島電鉄「原爆ドーム前」電停 徒歩5分）
連 絡 先： 広島市 都市整備局 緑化推進部 082-504-2390（直通）
建 立 者： 広島平和をきずく児童・生徒の会
建 立 年： 昭和33年5月5日

碑 文

【表】

これはぼくらの叫びです
これは私たちの祈りです
世界に平和を
きずくための

【裏】

原爆で亡くなった兄弟
の霊をなぐさめ世界
に平和を呼びかける
ために広島市小・中
高校の子供が結集し
全国の友達の支援の
もとにこれをつくる

一九五八年五月五日
広島平和をきずく児童生徒の会

説 明 文

原爆の子の像

建立者：広島平和をきずく児童・生徒の会
制作者：東京芸術大学教授 菊池一雄氏

この像は、2歳のときに被爆した佐々木禎子さんが、10年後に白血病で亡くなったことをきっかけに、同級生たちが「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と呼びかけ、全国の3,200余りの学校や世界9か国からの寄付などにより、1958年5月5日に完成したものです。

像の高さは9メートルで、その頂上には折鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、平和な未来への夢を託しています。側面には少年と少女の二体の像が配されています。

像の下に置かれた石像には、「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」という碑文が刻まれています。内部につるされた鐘には、ノーベル物理学賞受賞者である湯川秀樹博士の筆による「千羽鶴」「地に空に平和」の文字が彫られています。この鐘と金色の鶴は、2003年に複製されたものです。

6 平和記念公園・周辺ガイドMAP



提供: 広島観光コンベンションビューロー
レイアウト制作: cooltiger Ltd.
マップ制作: SHIRA CO-OP 白佐木 和馬